

新型コロナウイルスワクチン バキスゼブリア™筋注 を接種される方とそのご家族へ



このワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症予防を 目的としています

このワクチンはウイルスベクターワクチンという種類のワクチンとして、特例承認されたものです。早期に広く国民に接種することを目的に開発されたため情報は限られています。接種に際しては、接種医などからこのワクチンの説明を受けてください。

十分な効果を得るために計2回の接種が必要です

1回目の接種日から4～12週間の間隔を空けて、必ず2回目の接種を受けてください。

1回目

4～12週間

2回目

- 最大の効果を得るためには、**8週間以上**の間隔をおいて接種することをおすすめします。
- スケジュール通りに接種できない場合は接種医にご相談ください。
- 原則として、2回目も同じワクチンを接種してください。

予防接種法では、原則として40歳以上が本剤の接種対象と されています

(本剤の接種の必要がある場合には、18歳以上40歳未満の方でも接種可能です)

- アストラゼネカ新型コロナウイルスワクチンの接種前後に必ずお読みください。
- ご不明な点は接種医またはかかりつけ医にご相談ください。

ワクチン接種前のご注意

このような方は 接種いただくことができません！

- 明らかに発熱している
- 重い急性疾患(感染症、脳卒中、心疾患など)にかかっている
- このワクチンの成分で重い過敏症※1が起きたことがある
- 新型コロナウイルスワクチン接種後に
血栓症および血小板減少症が起きたことがある
- 毛細血管漏出症候群※2が起きたことがある

上記以外に、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師により判断された場合は、接種いただけないことがあります。

※1 重い過敏症とは、じんましんや腹痛、嘔吐、息苦しさなどが同時に、あるいは急激にあらわれることです。

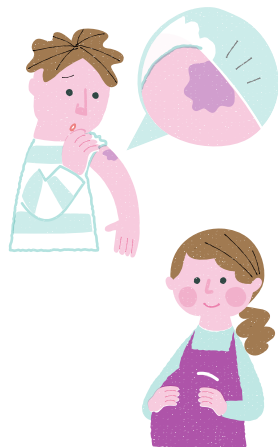
※2 毛細血管漏出症候群については裏表紙をご参照ください。



このような方は接種にあたり医師にご相談ください

- 血が止まりにくい、内出血がある、
抗凝固薬を使用している
- 免疫不全の診断を受けたことがある/
近親者に先天性免疫不全症の方がいる
- 心臓や腎臓・肝臓・血液の疾患、発育障害などの
基礎疾患がある
- 予防接種してから2日以内に、発熱したり
アレルギーを疑う症状が起きたりしたことがある
- 痙攣(けいれん)が起きたことがある
- 免疫性血小板減少症になったことがある
- 妊娠している/妊娠している可能性がある
- 授乳中である
- その他、健康上の懸念がある

○18歳未満の方に対する安全性・有効性は確立していません。



ワクチン接種に関するよくあるご質問



ウイルスベクターワクチンとは？



ヒトに対して病原性のないウイルスのベクター(運び屋)に新型コロナウイルスの遺伝子の一部を組み込んだワクチンです。接種によって新型コロナウイルス感染症の発症を予防しますが、体内でウイルスが増殖することはありません。

ワクチン接種後のご注意

接種後15～30分ほどは安静に

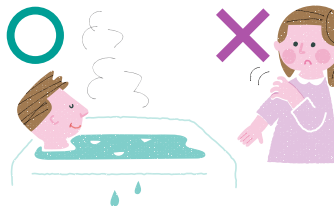
アナフィラキシー*などの副反応や緊張・痛みなどによる失神が起きることがあります。接種後15～30分ほどは施設内で座って様子を観察し、気になる症状があらわれたら医師の診察を受けるようにしてください。



※アナフィラキシーについては裏表紙をご参照ください。

○注射部位に貼られた絆創膏は30分程度そのままにしておいてください。施設内で絆創膏をはがす場合は専用の廃棄ボックス(ゴミ箱)などに捨ててください。

帰宅後にはがす場合は使用済みマスクなどと一緒にビニール袋などに入れてゴミ箱に捨ててください。

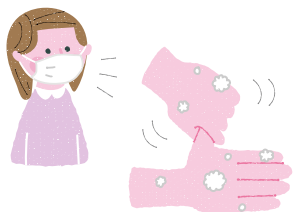


注射した部位をこすらないように

注射した部位を清潔に保って、こすらないようご注意ください。なお、接種当日の入浴はさしつかえありませんが、体調が悪い時には無理をせず、様子を見るようにしてください。

激しい運動は避けましょう

接種当日はいつも通りの生活をしてかまいません。ただし、激しい運動は避けてください。



ワクチン接種後も、 継続して日常的な予防を

引き続き、マスクと手洗い(手指の消毒)などの日常的な予防を心掛けることが大切です。さらに3つの密(密閉、密集、密接)を避けて行動しましょう。

○このワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症予防を目的としたワクチンであり、感染予防に関する有効性は確立していません。

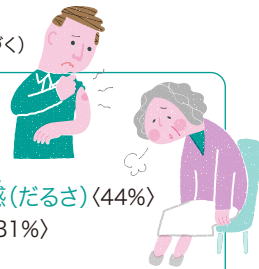
Q 薬を使用していますが
ワクチンを接種しても大丈夫ですか？

A 薬を使用しているためにワクチンが接種できないことはありませんが、かかっている病気によっては、接種を慎重に検討したほうがよい場合がありますので、かかりつけ医とご相談ください。

Q 1回目の接種から12週以内に2回目の接種が
できなかった場合、どうしたらいいですか？

A できる限りすみやかに2回目の接種を受けてください。

副反応がみられることがあります ()内は頻度 (電子添文に基づく)



主な副反応

注射した部位の症状

- 痛み<63%>
- 熱っぽさ<18%>
- 内出血(あざ)<18%>
- かゆみ<13%>

全身の症状

- 疲労<52%>
- 頭痛<51%>
- 倦怠感(だるさ)<44%>
- 筋肉痛<44%>
- 発熱感<34%>
- 悪寒<31%>
- 関節痛<27%>
- 吐き気<21%>

● 上記の副反応の多くは、接種翌日にみられ、発症から1～3日以内に治まります。

接種後の注射部位の痛みや筋肉痛、発熱等の副反応に対して、解熱鎮痛薬(アセトアミノフェン、ロキソプロフェン等)の使用が可能です。症状が回復せず、痛みや高熱などが持続する場合は、医師の診察を受けてください。

ショック、アナフィラキシーが起こることがあります

「アナフィラキシー」と呼ばれるじんましん、呼吸困難、血圧低下などの激しいアレルギー反応や血管性浮腫(血管の変化が原因で顔やのどにあらわれる腫れやむくみ)が急にあらわれることがあります。

ごくまれに血小板減少症を伴う血栓症が起こることがあります

このワクチンの接種からとくに4～28日後は、激しい頭痛や持続する頭痛、霧視(目のかすみ)、息切れ、注意力が散漫になる、けいれん発作、胸の痛み、足のむくみや痛み、持続する腹痛、内出血(あざ)がしやすい、注射した部位以外にも小さな点状の内出血があらわれるなどの症状にご注意ください。また、血小板減少症に伴う脳静脈血栓症(脳の静脈に血栓ができる)などの重篤な症例も認められています。

免疫性血小板減少症が起こることがあります

このワクチンの接種後に免疫性血小板減少症があらわれることがあります。鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくいなどの症状にご注意ください。

● 本ワクチンとの関連は不明ですが、ごくまれに、以下のような疾患も報告されています。

- しびれや感覚障害(チクチク感、感覚がなくなるなど)、運動障害(力がはらない、歩きにくい)などを起こす神経疾患
- 急速に悪化する手足のむくみや血圧低下があらわれる毛細血管漏出症候群

接種後に上記のような異常やいつもと違う体調の変化を感じた場合は、すみやかに医療機関にご相談ください。

予防接種健康被害救済制度のお知らせ

万一、このワクチンの接種により健康被害が発生した場合は「予防接種健康被害救済制度」により治療費等が支給される場合があります。



● 詳しくは、厚生労働省ホームページへ

予防接種 救済



検索

